

令和6年度第1回総合教育会議 会議録

日時 令和7年2月7日（金）午後3時30分
場所 山武市役所 新館3階 第5会議室
議題 山武市立図書館の今後について

出席者 ◎市長 松下 浩明
◎教育委員会
教育長 内田 淳一
教育長職務代理者 木島 弘喜
委員 北田 昭雄
委員 鈴木 智子
委員 相葉 英樹
委員 伊藤 範子
○関係職員
副市長 上大川 順
総合政策部長 荒木 康之
総務部長 渡辺 利明
教育部長 今関 正典
企画政策課長 石田 純一
財政課長 岩澤 和久
教育総務課長 坂本 あゆみ
施設整備課長 高山 義則
生涯学習課長 渡辺 幹夫
スポーツ振興課長 五木田 吉信

事務局
教育総務課副主幹 鈴木 敏一
教育総務課総務企画係主事 市東 和洋
教育総務課総務企画係主事 豊田 真衣

◎開 会

教育部長

ただいまから、令和6年度第1回山武市総合教育会議を開会いたします。

本日、司会を務めます、教育部長の今関でございます。宜しくお願いいたします。

本日は、松下市長、内田教育長、木島委員、北田委員、鈴木委員、相葉委員、伊藤委員に出席をいただいております。

次に、本日の会議資料ですが資料1から資料6までございます。

それでは、次第に沿いまして会議を進めてまいります。はじめに、松下市長よりご挨拶をいただきます。

市長

本日はご多用のところ、令和6年度第1回総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。

教育委員の皆さま方におかれましては、日頃より市行政に対してご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本日は山武市立図書館の今後についてを議題として取り上げたところでございます。

図書館は、年齢や経済的状況等を問わず、市民の身近にあって、図書やその他の資料を収集、整理、保存し、その提供を通じて市民の個人的な学習を支援するという役割をもつ生涯学習施設であり、情報提供サービスを通じ地域が抱える様々な課題解決の支援なども求められています。

本市の図書館は、旧成東町、旧山武町、旧松尾町の3町に整備されており、合併以来すべての図書館を維持してきました。

しかしながら、少子高齢化により、山武市の人口減少は進行しています。令和4年度には旧松尾町地域が過疎地域に指定されました。今後、他の地域についても過疎地域に指定される可能性があります。

このような状況の中、山武市立図書館における、現状と課題や、今後の見通しなど、皆様との共通認識を図り

ながら、最善の方法をとることができればと考え、本日の議題としました。

社会情勢の変化に迅速に対応するため、スピード感を持つとともに、十分な協議を行いながら、連携を図り、進めてまいりたいと考えています

今後とも御理解、御協力をお願い申し上げ、簡単ではございますが、あいさつとさせていただきます。

教育部長

ありがとうございました。

続きまして、内田教育長よりご挨拶をお願いいたします。

教育長

市長には総合教育会議を開催していただきありがとうございます。

この総合教育会議でございますが、教育を行うための諸条件の整備について、地方公共団体の長と教育委員会とが協議する場でございます。

今回の会議は、先ほど市長からもありましたように山武市立図書館の今後について意見交換することとなっております。

現在、市長が教育環境の整備について市の重点項目に位置づけて取り組んで頂いており、このことに対して感謝を申し上げるわけですが、本日の議題もこれに関わる重要なテーマであると考えます。

つきましては、教育委員のみなさまもぜひ忌憚のないご意見を述べていただき、活発な意見交換にしたいと考えています。限られた時間ではございますが、実り多き会議になりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

教育部長

ありがとうございました。それでは、議事に移ります。

なお、議長につきましては、山武市総合教育会議設置要綱第4条第1項により会議は、市長が招集し、会議の議長となる。とありますので、この後は、市長に議長となつていただき、議事の進行をお願いします。

市長

しばらくの間、議長を務めさせていただきます。よろしくお願いたします。

早速ですが、次第にあります山武市立図書館の今後についてを議題とします。

初めに、本市の財政状況及び行政改革の取り組みについて、事務局から説明をお願いします。

財政課長

財政課長の岩澤でございます。よろしくお願いいたします。

私からは、本市の財政状況について、ご説明させていただきます。資料1、山武市の財政状況をご覧ください。

はじめに、市債と基金の状況でございます。

わかりやすく申し上げますと、市債は、主に公共施設の整備などの、建設事業を行うために必要な資金を、国や金融機関などから調達する借入金で、いわゆる市の借金のことです。

基金は、特定の目的、事業のために積み立て、準備しておく資金のことで、貯金にあたります。

資料の右下の枠内をご覧ください。

令和6年3月末の市債残高は、一般会計と病院事業会計を合わせまして、236億5千699万6千円となっております。

対しまして基金残高は、財政調整基金と、その他の基金を合わせまして、175億4千665万8千円となっております。

左の枠内、令和2年3月末の状況をご覧くださいますと、市債の合計は178億7千19万9千円、基金の合計は164億2千805万7千円となっており、比較いたしますと、市債が約57億円、基金が約11億円増加している状況でございます。

この4年間で市債が増えた主な要因は、さんむ医療センター新病院建設のほか、給食センター建設や松尾小学校の校舎改築工事などによるものでございます。

次に、上段の一般会計予算の推移をご覧ください。

一般会計の予算規模は、令和2年度から令和5年度までは、230億円前後で推移していましたが、令和6年度は、給食センター建設工事等により258億2千万円となっております。

続きまして資料2、決算状況等比較表をご覧ください。

こちらの表は、決算の状況について、近隣市である東金市、八街市、富里市、匝瑳市、いすみ市、大網白里市と比較した資料となります。

説明箇所を青色に着色しておりますので、ご覧いただければと思います。

まず、上から3行目、財政状況の歳出総額をご覧ください。

本市の251億円に対して、人口規模がほぼ同じである大網白里市は169億円と、約80億円の開きがあります。

次に、その下の地方債現在高ですが、本市は236億円と、近隣市と比較し、高い値となっております。要因といたしましては、主に合併後の施設整備等での起債によるものです。

次に、表の中段、目的別歳出割合をご覧ください。

本市の、歳出総額に占める教育費の割合は11.2%となっており、近隣市と比較し、高い値となっております。最後に、下段の性質別歳出割合ですが、いちばん下の行、投資的経費計をご覧ください。本市の、投資的経費の割合は9.8%となっており、こちらも近隣市と比較し、高い値となっております。

この投資的経費でございますが、道路等の基盤整備や、公共施設の建設等に係る費用となります。

このような指標から見てみますと、本市は多くの公共施設等の資産を抱えており、その整備や維持管理に、多大な費用を費やしている状況であることがわかります。

私からの説明は、以上でございます。

企画政策課長

企画政策課長の石田です。よろしく申し上げます。

私からは行政改革の取り組みについて、説明いたします。

続いて、行政改革の取り組みでございますが、こちらは資料の用意はございません。口頭での説明といたします。

令和5年度に、行政改革推進本部の下部組織として、関連部署で構成する事業見直しのプロジェクトチームを立ち上げました。こちらで職員から寄せられた改善検討事業について検討を行ってきました。

優先的に検討していくハード事業として、図書館及び蓮沼出張所の集約化が取り上げられています。

昨年に設置しました山武市行政改革外部評価委員会からの意見を踏まえながら、検討を進めていくこととなります。

続いて、公共施設の統廃合について、説明いたします。

公共施設につきましては、その維持管理費、配置する職員の人件費等、多大な費用がかかっており、本市の場合、合併前からの施設が散在している状況です。こうした施設の統廃合の検討にあたりましては、山武市公共施設個別施設計画の中で複合化・集約化検討と方針が示されている施設がいくつかありますので、まずはその施設から検討を進めているところです。

資料3、山武市公共施設個別施設計画における複合化・集約化等検討施設一覧をご覧ください。

具体的に複合化・集約化検討が示されている施設を申し上げます。まず1番目、成東中央公民館、さんぶの森中央会館、農村環境改善センターです。2番目が、成東図書館、さんぶの森図書館、松尾図書館の3館となります。3番目が、松尾運動公園、さんぶの森武道館、白幡体育館となります。4番目が、成東老人福祉センター、マザーズホーム、成東福祉作業所となります。最後の5番目が蓮沼出張所です。

1番目の成東中央公民館等の地域施設及び3番目の社会体育施設は特定の団体が利用しており、現場の状況を把握している教育委員会、担当課等で団体の方とも協議いただき、具体的な方向性を出していただいたうえで検討する予定です。

また、4番目の成東老人福祉センターやマザーズホーム等の福祉施設については、現在、保健福祉部内で協議が進められているところです。

そして、2番目の図書館及び5番目の蓮沼出張所については、不特定多数の方が利用している施設であることから、行政改革推進本部において、優先的に検討していく施設としています。

市長

ありがとうございます。

ただ今、事務局から財政状況及び行政改革の取り組みについて、説明がありました。

補足いたしますと、5番目の蓮沼出張所については、市民部を中心に市役所内で協議・検討を行っているところです。

そして、2番目の図書館でございますが、教育委員会内においても、早急な協議、検討をお願いしたく、本日の議題としたところです。

それでは、図書館の現状について、事務局から説明をお願いします。

生涯学習課長

生涯学習課の渡辺です。よろしく申し上げます。私からは、図書館の現状について説明いたします。

資料4、山武市立図書館の現状、①図書館一覧の表をご覧ください。山武市には、図書館法に基づく図書館が3館存在しています。

それぞれの施設の稼働状況でございますが、山武市の各図書館では特色ある運営を実施しており、最も貸出冊数の多い成東図書館には、バランス型の図書購入を行い、さんぶの森図書館はビジネス書などの成人向け書籍や郷土資料を重点的に用意し、松尾図書館は児童書等を多く揃えています。

次に施設の現状でございますが、山武市の図書館は成東図書館が平成8年の建築で最も古くなっており、さんぶの森図書館は平成10年、松尾図書館は平成16年の建築となっています。

最も古い成東図書館が令和6年現在で築28年が経過しているものの、構造は鉄筋コンクリート造であり、標準使用年数は60年と設定されていますので、今後30年以上の利用が可能となります。

令和5年度の来館者数は、成東図書館が30,517人、さんぶの森図書館が39,732人、松尾図書館が35,258人で、合計105,507人です。

来館者数の推移でございますが、資料②のグラフをご覧ください。

令和元年度までは、20万人前後の数値で推移していました。

しかし、新型コロナウイルス感染症対策のために令和元年度よりたびたび臨時休館となり、開館日数が大幅に減少しました。

また、開館したものの、来館者に図書館の利用時間を制限する時期もありました。そのため、令和元年度より来館者数は減少し、最も臨時休館が多かった令和2年度は35,191人と大幅に減少しました。

その後、回復傾向にはなりましたが、新型コロナウイルス感染症発生前の人数とは大きく乖離している状況です。

続いて、貸出冊数でございます。

令和5年度の貸出冊数は、成東図書館が142,006冊、さんぶの森図書館が75,550冊、松尾図書館が66,608冊で、合計284,164冊です。

貸出冊数が最も多いのは、成東図書館で、市役所の近くに設置され市の中心地に位置しており、利用者の利便性が高いことや、駅が近くにあり交通アクセスが良いことが主な要因であると考えられます。

貸出冊数の推移でございますが、資料③のグラフをご覧ください。

令和元年度までは、市全体の貸出冊数は30万冊を超える数値で推移していましたが、新型コロナウイルス感染症対策のために令和元年度よりたびたび臨時休館となり、開館日数が大幅に減少しました。

また、来館者に図書館の利用時間を制限する時期もあったことから、令和元年度より貸出冊数が減少し、最も臨時休館が多かった令和2年度は貸出冊数が214,301冊と大幅に減少しています。

その後、回復傾向にはなりましたが、新型コロナウイルス感染症発生前の平成30年度の貸出冊数344,174冊までには至っていない状況です。

市長 続いて、近隣市等との比較や適正規模について、事務局から説明をお願いします。

企画政策課長 資料5、近隣市等との比較をご覧ください。初めに、①合併市町との比較について説明いたします。

複数の図書館を運営しているのは山武市と香取市の2市だけでございます。他の合併市では、1館の図書館と図書室もしくは図書コーナーを公民館等に設けるという運営がされています。

山武市は同規模の図書館を3館運営していますが、香取市は佐原中央図書館に蔵書が集中している状況です。

蔵書の規模が入館者数及び貸出冊数に影響していることが伺えます。

続いて、②近隣市との比較の表をご覧ください。

近隣市は、合併市ではないため、図書館は各団体1施設となっています。ただし大網白里市は、図書館がなく、大網白里市図書室と2つの分室となっています。

また、東金市は半年間、工事により閉館となっていたため、入館者数が例年より少ない数値となっています。

山武市以外の図書館では、年間で市民一人当たりには換算すると2回ないし3回程度の利用がありますが、山武市は各図書館年間1回に満たない数値となっている状況です。

続いて、③維持管理経費の比較の表をご覧ください。こちらは、令和5年度決算額をベースにした近隣市町等の図書館に係る経費の比較表となります。

山武市の図書館は表の中で、市民1人当たりの経費が

非常に高い状況であることがわかります。

山武市経費の内訳を円グラフにしております。青色の部分、約8割が人件費となり、その中でも会計年度任用職員にかかる経費が大きい状況です。

3館の運営を続けるために、それぞれの図書館で会計年度任用職員を採用していることが主な原因となっているものと考えられます。

次に維持管理経費等の推移でございますが、資料④のグラフをご覧ください。青色の線が全体の決算額、オレンジ色の線が図書購入費となります。

令和5年度は施設改修費47,567,850円が含まれていることから、かなり上振れしています。施設改修費を除いても、経費は年々上昇しています。

図書の購入を控え、経費削減に努めているものの、図書館に係る経費の大部分が人件費となるため、今後も上昇することが予想されます。

資料6、国が想定する図書館の標準規模をご覧ください。

市立図書館の施設数など、適正規模を直接指定している法律はありません。

しかしながら、地方公共団体の運営において、重要な役割を持つ地方交付税法において市町村ごとに、標準的条件を備えた地方団体が合理的、かつ、妥当な水準において地方行政を行う場合又は標準的な施設を維持する場合に要する経費を基準として単位費用という数値を設定しています。

これは国が想定する標準団体において分野ごとにかかる費用を自治体の規模に応じて割合で変動させるものです。

初めに①の表をご覧ください。国が想定する標準団体に対する山武市の割合は、0.484となります。

次に、②の表をご覧ください。標準団体の維持管理経費の費用と、その経費に山武市の人口水準の0.484倍した数値となります。

なお、図書館は人口を基準としており、標準団体にお

いて 10 万人で 1 館、維持管理経費（人件費含む）が 86,507 千円となります。

山武市は人口が 48,444 人なので計算上は、図書館数は 0.484 館となり、維持管理経費は 41,869 千円となります。

次に、③の表をご覧ください。令和 5 年度の決算値と国が想定する山武市の図書館にかかる費用の差額は資料のとおりです。カッコ内は、施設改修費 47,568 千円を除いた数値となります。

このように当市の図書館にかかる費用は国の基準よりも非常に多く、特に人件費の差額が大きいことがわかります。

次に、④山武市の人口推計グラフをご覧ください。黒色の線が国勢調査に基づく推計値で、山武市の人口は 2030 年には 4 万人、2050 年には 2 万 2 千人程度になることが想定されています。

なお、青色及びオレンジ色の線は、出生率の上昇や 20 代の社会移動が改善した場合の推計値となりますので、改善された場合であっても人口減少は進んでいくことが想定されています。

これらのことから、山武市の身の丈にあったコンパクトな行政運営を目指しており、施設や事業の集約化が必要であると考えています。

事務局からの説明は以上となります。

市長

ありがとうございます。

ただ今、事務局から説明がありました。

これからは、教育委員の皆さまと意見を交換しながら進めたいと思います。

意見はございますか。

相葉委員

はい。議長。

市長

相葉委員。

相葉委員

本市の図書館にかかる費用が国の想定する標準団体の

基準とかけ離れていることは理解できました。

今のままだと3つの図書館は残せないのかなと、どこか順番になくなってしまふ。ただ順番になくなっていく。そうさせないためのアイデアが必要であると思います。運営の効率化というのでしょうか、時間の凝縮というのでしょうか。時間の短縮、単に経費コストカットではなくて、集約して人が集まる仕組みを組み込んでいく。合併市ですので、地域性、個性というのでしょうか。これを出していくと、そこに人が集まる理由ができるのではないかと思います。

これまでも、各図書館では特色ある運営を実施しているところですが、今後もよりよい形を模索していただきたいと思います。

例えば、近年注目されている図書館整備事例として、デジタル技術の活用、市内全域に対する図書館サービス網の構築、官民を巻き込んだ郷土情報のアーカイブ化、学校との先進的な連携などがあるかと思います。

これらの事例等も参考に本市の地域性に合う図書館を模索していただきたいと思います。

市長

ありがとうございました。

委員のおっしゃるとおり、本市は合併市であり、それぞれの地域性は大事であると考えます。先進事例等も参考に、本市にあった図書館の在り方について、検討する必要があると思います。

そのほか、いかがでしょうか。

鈴木委員

はい。議長。

市長

鈴木委員。

鈴木委員

山武市の人口が2030年には4万人、2050年には2万2千人程度になるとの推計でしたが、グラフで見ると、ものすごく減っていくのだなと感じました。

わかっていたことではありますが、これから益々高齢化が進みます。人口減少というところに輪をかけて高齢

化していく。そういう場合、運転免許証の返納であったり、様々な理由で高齢者は出かけにくくなる。

そんな時に図書館という外出場所があるというのは、素晴らしいことだと思います。

地域福祉の観点といますか。高齢者の社会参画。生涯学習の面から考えて、レファレンスサービスの充実や図書館の在り方など、そういったものに力を入れてもらい、高齢者の居場所となるような施設になればと考えます。ある図書館には施設内にカフェが入って、図書館利用だけでなくカフェでおしゃべりや交流ができて高齢者の居場所、交流拠点になっているそうです。

図書館の統合、集約化はやむを得ない状況だと思いますので、統合したうえでサービスの充実を図る。山武市立図書館の今後を考えるこの機会に、山武市の図書館も高齢者の居場所、交流拠点となるような施設にしていただけたらなと思います。

市長

ありがとうございました。

委員のおっしゃるとおり、高齢化は益々進んでいきます。その中で高齢者の居場所、交流の拠点は今後必要になってくると思いますので、図書館の統合と併せて、複合施設についても検討していただきたいと思います。

そのほか、いかがでしょうか。

北田委員

はい。議長。

市長

北田委員。

北田委員

近年、子どもを取り巻く環境は、ゲームやテレビ、スマートフォン、インターネットなどによる映像文化が日常化し、子どもの読書離れが社会問題にもなっています。また、今の子どもたちは、学習や習い事、部活動で忙しく、読書に充てられる時間も限られているのかなと思いますので、どのように読書活動を推進していくのか、考慮しながら今後の図書館の在り方や有効活用への取り組

みを検討していく必要があると考えます。

例えば図書館で将棋やオセロができるとか。それから子どもたちも一緒に楽しめるアナログのゲーム等、テレビやスマホではなく、ちょっと対面して楽しめる場所の提供等を用意すると世代間の交流が生まれる空間にもなれるのかなと考えます。

また、図書館は静かにしなくちゃいけない場所という固定観念をもう少し、柔軟に考えてみてはどうでしょうか。既に各図書館では、キッズコーナーというスペースを設けたりして、小さなお子さんを持つ保護者も来やすい環境を作っています。小さいうちから親しんでもらえば、その先ずっと大人になって、歳をとっても、図書館が身近な存在に感じられるのではないのでしょうか。

誰もが使いやすい図書館を目指し、多様な子どもたちに対応した取り組みを今後、更に充実させていく必要があると思います。

市長

ありがとうございました。子どもと高齢者が交流のできる場所、とても良いと思います。一緒にアナログゲームとの意見でしたが、反対にデジタルゲームと一緒にやるのも面白いかもしれません。また、乳幼児の保護者が子どもと一緒に利用しやすいようにぎやかでも良い時間帯を設けても良いのかもしれませんが。

そのほか、いかがでしょうか。

伊藤委員

はい。議長。

市長

伊藤委員。

伊藤委員

普段、私も個人的に図書館を利用させていただいておりますが、となりの横芝光町にある本が山武市にはないなど、本市の図書館は本が少ないのかなと感じていたのですが、資料を見ますと、やはり横芝光町は突出して蔵書数が多いことがわかりました。しかしながら、山武市は近隣市町と比べ決して少ないわけではない、むしろ合

計すれば多いことがわかりました。考えてみますと、市内3館分購入しなければならぬ同じ本もあるかと思えます。単純な計算は成り立たないとは思いますが、効率化や集約によって本を充実させることが出来るのではとも考えられます。

また、開館時間についても、すべて同じ時間ではなく、利用者が多い時間に短縮することによって経費の削減が出来るのではとも考えられます。

いずれにしても、本市にとって、どのような図書館が望ましいか検討していく必要があると思えます。

市長

ありがとうございました。

私も、施設の集約や事務の効率化により、本を充実させることが出来るのではないかと思います。また、開館時間の意見もありましたが、利用者が集中する時間や、逆にあまり利用されていない時間があるのであれば、検討していただきたいと思えます。

そのほか、いかがでしょうか。

木島委員

はい。議長。

市長

木島委員。

木島委員長

教育委員会では、令和2年11月に市長に対し、社会教育施設等の今後のあり方に係る申し入れをしています。その中で、図書館については、「現段階では、それぞれ維持する。しかし、将来的には、情報取得に便利な図書館となるよう情報資産の集中・一元化を図るため、ICT技術の進展状況を見定めながら施設の統合・拡充を進める方向で検討する。」としています。

山武市が誕生してから、もうすぐ20年になります。山武市の人口も5万人を切り、少子高齢化も進んでいます。以前からこのような時が来るといのは、わかっていたことではありますが、いよいよ将来の山武市のために、進めなければならない、やらなければならない時だと思

います。

教育行政を担う立場から、社会の高度情報化や急激な変化が進む今だからこそ、教養、価値観、感性等をも高める読書が果たす役割は重要であり、大切であると考えます。

それぞれの図書館を残したいという気持ちは当然ありますが、本日の会議において、山武市としての適正規模での運営を目指すため、早急に具体的な方向性を示すことが必要であると感じたところです。

企画政策課長 はい。議長

市長 企画政策課長。

企画政策課長 本市は、平成18年3月に成東町、山武町、蓮沼村及び松尾町の3町1村が合併し誕生しました。4町村が保有していた文化・教育・福祉等公共サービス提供のための施設を、そのまま継承したことにより多くの公共施設を保有してきましたが、人口減少社会の到来や厳しい財政状況が見込まれる状況下においては、現状の公共施設等を維持し続けることは、市の財政状況やまちづくりに影響を及ぼすとともに、次世代の大きな負担となることが懸念されます。

こうした状況を踏まえ、教育委員会には、各施設の長寿命化や廃止等の具体的な将来の方向性を、図書館の適正な配置の在り方について検討していただきたいと思えます。

生涯学習課長 はい。議長

市長 生涯学習課長。

生涯学習課長 利用者にとっての市内の社会教育施設は、長年利用し、使い慣れた愛着ある身近な施設です。いつまでも存続させることが望ましいことではあります。

しかしながら、少子化等による人口減少や高齢化の進展、施設の老朽化など、社会教育施設を現状のまま維持・運営していくことは困難な状況であると考えます。

また、家庭におけるネットサービスの充実、社会環境の急速な変化の中、時代に応じた社会教育施設が求められていることも認識しています。

特に本日の議題である図書館については、課題等を再整理し、早急に計画を具現化し、進めてまいりたいと思います。

市長

本市の行政運営の柱となる第3次山武市総合計画の重点分野のひとつとして、持続可能なまちづくりを進めるため、公共資産の適正化とファシリティマネジメントの推進に取り組むことを掲げています。市民の安心安全を確保しながら、人口減少に対応した行政運営も求められているところです。

将来に渡って持続可能で魅力あるまちづくりを進めるため、教育委員会には、今後の山武市立図書館の在り方、具体的な計画の策定をお願いしたいと思います。

それでは、内田教育長、お願いいたします。

教育長

先ほどの企画政策課長の話にもありましたように、本市では、合併前の4町村が保有していた公共施設の多くをそのまま継承してきましたが、合併以来人口が減少している本市の状況にあって、これらの施設を今後どのようにしていったらいいのか、というのは非常に大きな問題だと考えています。

では、本市の教育委員会所管の施設はどうかというと、これまでに、小学校2組、中学校2組の合わせて4組の学校統合を行ってきました。このほかに、社会教育施設やスポーツ施設については早急に運営の効率化を図る必要があると考えています。先ほど木島委員の発言にもありましたが、進めなければならないときだと思います。特に、図書館の在り方については、本日の会議を第一歩と考え、具体的な計画策定に取りかかり、遅くとも来年

度中には方向性をお示しできればと考えています。

なにぶん、予算権限のない教育委員会であり、市の財産の今後をどのようにするかという大きな業務になりますので、計画の策定に当たっては企画政策課や財政課など、市長部局との連携協力が不可欠です。何とぞよろしくお願いいたします。

市長

ありがとうございました。本日の協議は以上でよろしいでしょうか。

本日は、各委員の皆様にも、色々と貴重なご意見をいただきまして、本当にありがとうございました。

繰り返しとなりますが、将来に渡って持続可能で魅力あるまちづくりを進めるため、教育委員会には、今後の山武市立図書館の在り方、具体的な計画の策定をお願いいたします。

また、教育委員会には、図書館以外の社会教育施設、スポーツ施設についても、それぞれ課題があるかと思いますが、現場の状況を把握している教育委員会、担当課で団体の方とも協議のうえ、検討いただくよう併せてお願いします。

以上で議長の任を解かせていただきます。

会議進行にご協力いただきありがとうございました。

教育部長

本日は、皆様より多くのご意見、具体的な方向性を頂戴いたしました。誠にありがとうございました。

なお、本日の会議録につきましては、後日、山武市ホームページでの公開を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これをもちまして本日の会議を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。

◎閉 会 午後 4 時 15 分